

全国シニア柔道選手権 2009-2010 に参加して

平成 21 年 12 月 23 日

長瀬 拓巳

(H21 年度 2 次隊)

私は今回、インド柔道のシニアナショナル大会を見るために、2009 年 12 月 16 日から 12 月 20 日まで国内出張を行いました。今回の出張の目的は、直にインド全州の柔道のレベルがどこまで進んでいるのかを知ることであり、またそれをヒントに派遣州であるボンベイ（ムンバイ）をどのような方向に強く鍛えていくかを知るためのものでした。

ナショナル大会は男女 8 階級が 2 試合場を使って行う形になっていました。今回、試合開催地がハリドワールということもあり、朝の 1 回戦が始まる時（9 時）の気温が約 8 度と選手にとって環境条件が悪く、アップ不足によって体を動かしてない選手が大半見られました。11 時を過ぎるころにはやっと暖かくなりこの時にやっと選手達の実力が発揮されているところ見ることができました。これは選手のアップ不足も原因ですが、試合場の設置や試合を運営する側にも原因があると感じました。この原因は畳の数を増やすことで解決できる問題だと私は思います。

試合は全州大会なだけあって私が思っていたよりも強い選手がたくさんいてとても驚きました。しかしその一方、予選をしっかりしてないのか解りませんがほとんど素人同然の選手なども出場していて、選手選考に疑問を感じました。私のマハラシュトラ州チームにも試合を行っているところを見たこともないような選手が何故か出場していて私の州だけでももっと選考に力を入れさせようと思いました。

ナショナル大会を見て今回私は 3 つの州に注目しました。1 つは北インドのジャム・カシミール州とパンジャブ州です。彼らの柔道はレスリング技のような奇襲技を主に得意技にしている見ての通り「組手」「足さばき」「重心」がほとんど奇襲技や返し技を狙っていると見てとれました。しかし IJF（国際柔道連盟）が導入予定の新ルール（直接《崩しのない状態で》相手の道着のズボン握ると 1 回目は指導、2 回目に反則負けになるルール）を今大会導入していたので、北インド選手のようなレスリング技を得意とする選手にとっては今大会一本を取るにはとても難しいルールなようであり、そのため多くの選手が消極的に対する指導や直接ズボン握る行為に対しての指導を与えられている場面が多く見かけられました。しかしこのレスリング技は北インド選手に限ったことではなく、ほとんどのインド選手が行う技であり、私の州は今この技を行わないよう先生達一同で直しにかかっている最中です。

2 つ目に注目した州がインド北東部のミゾラム州やアッサム州などです。これらの州の柔道が一番日本の柔道に近く、選手達も柔道技を得意技としていて姿勢や足さばき、寝技までもがとても上手にできていました。聞くところによるとインド北東州は中国からのコーチを多く呼んでおり、また日本からも数々短期でコーチが来ているようなのです。その結果柔道の形が徹底されておりほとんどの選手が同じ得意技、同じ動きをしていました。この動きが同じというのは少し行き過ぎた指導だと思いましたが、ほとんどの選手に基本が備わっているというのはとてもすばらしい指導であり私も学ばされる点があつきました。それは基本指導の徹底と統一です。自由な柔道というのは良い事ですが、それは基本を覚えてからのステップだと思いました。（※基本＝歩行方法、体さばき、組手の位置、崩しの理解、受け身の習得）

3 つ目に注目したのがウツタル・プラデシュ州（UP 州）です。UP 州には 3 人のインド

代表選手がいて国際大会やオリンピック経験の選手がいると聞きました。その選手達の影響でUP州は柔道が盛んであり、この代表選手達のおかげで他の選手達の柔道への気持ちが高まっているのではと思われます。現に試合では応援などでもこの州の盛り上がりが大きく、選手自身も応援によって支えられていました。

全階級を見て気付いたのは、男子中量級（-81kg）以下がとても高いレベルに位置しているということです。中量級以下は1階級に5人以上の実力者がいてインドナショナル大会の盛り上げ要因になっておりました。私自身が教える道場にも同階級で強い選手が何人かいるのですが、この選手たちを見るとレベルの差を感じさせられ、私にとっても私の教え子にとってもよい励みになりました。重量級（+/-100）以上に関してはレベルの低さに残念な思いをしました。ほとんどの選手が力だけで技をかける選手3人と数えるぐらいしかいませんでした。その結果、私の教えている生徒でもこの2階級は育て次第で強くなれると感じました。

女子階級については圧倒的に腕力の差が出ていました。技を掛けている選手がいましたがそれは対戦相手が力負けしていたのと、“受け方”を知らない選手がほとんどだったからだと思われます。マハラシュトラ州の女子選手はこの“受け方”と体力が勝つための必要条件になると解りました。

今回の大会は男子の-81階級以下の選手が目立った大会でした。インド柔道選手とマハラシュトラ州の選手が強くなるにはまず基本の見直しが必要だと気付きました。そして得意技の徹底練習、寝技の強化です。特に寝技に関してはほとんどの選手が無知でありここに勝つための光があると発見しました。

今大会はインド柔道の内容を見ることのできるとても良い経験になり、私が生徒に教えるためのヒントがたくさんありました。この経験を基に今後生徒へと指導に熱を入れるとともに代表選手をだしてマハラシュトラ州の柔道を活気づけたいと思いました。

選手以外での改善点で私が気付いたのは主に大会運営と審判方達です。今大会実力選手がたくさんいたのですが、大会運営が良くないので（大会の対戦相手を前もってではなく2日前あたりにクジ引きなどで対戦者を決定している）実力者同士の早期対戦が多く見かけられ、そのためせっかく4位以内に入ることのできる実力選手が強化合宿のキップを逃すといったことが何試合かありました。できるならこの試合の運営方法や対戦者の取り決め方を改善してもらおうと思いました。また審判にも問題があり、審判講習は行っていると聞いておりましたが新ルールや技や試合の流れを見ることのできる審判が圧倒的に少なく、場の空気に流される審判もいて審判レベルの低さについてとても残念に思いました。なによりも審判のため負けてしまう選手がとてもかわいそうで残念でした。このことについて私は先生と話し合っ改善の道を作っていくつもりです。